研究課題	診断未確定関節炎に対する新潟発地域連携ネットワーク構築の試み
支援番号	GC04720241
研究事業期間	令和６年４月１日から令和７年３月３１日
助成金総額	300,000
研究代表者 （所属機関）	近藤　直樹（新潟大学医歯学総合病院 整形外科）
研究分担者 （所属機関）	黒田　毅（新潟大学保健管理センター）、小林大介（新潟大学医歯学総合病院腎膠原病内科）、角谷梨花（新潟大学スイングバイ・プログラム（整形外科、肉眼解剖学））
研究キーワード	診断未確定関節炎 地域連携ネットワーク
研究実績 の概要	＜研究の成果＞ ＃１　診断未確定関節炎に対する地域連携ネットワーク構築の第一歩として2023年9月1日にホームページを公開した。2024年4月からの年度において、このホームページの周知に努めた。 ＃２各種の講演会にてアピールを行った（下記、学会発表の項目を参照）。 また、general practitioner(かかりつけ医)、Rheumatologist（リウマチ専門医）向けに第４回新潟リウマチを診る会を主催し本研究の立ち上げの経緯や取り組みについて特別講演を行った（2024 年 2 月）。 ＃３啓発目的に、ポスターやチラシを新潟市内のクリニックに送付、配布しこの地域連携ネットワークの周知に努めた。 ＃４　関節炎基本チェックリストは、A）30 分以上持続する朝のこわばり、B）11 項目すなわち１）パジャマのボタンがかけにくい、２）ドアノブがまわしにくい、３）家のカギをあけにくい、４）靴ひもやリボンが結びにくい、５）歯ブラシを持ちにくい、６）はさみを使いにくい、　７）コーヒーの蓋が開けにくい、８）ホッチキスが使いにくい、９）テレビのリモコンのボタンが押しにくい、１０）箸が使いにくい、１１）朝食を料理するときの不快感、である。A）および B）の 2 項目以上を満たすとき、患者はかかりつけ医に即相談してもらうように、インターネット、雑誌、新聞、テレビ、ラジオなどのメディアを利用し、市民公開講座、日本リウマチ友の会（新潟支部）などを通じて啓発活動を行い、自己チェックリストの利用を呼び掛けた。 チェックリストの予備的評価のために、新潟大学医歯学総合病院整形外科に定期通院している患者１００名を対象としてチェックリストを記載してもらい、集計した。４）と７）が最も多い該当項目であることが判明した。 上記の取り組みは資材として作成され配布された（Confronting RA No.5 Next Stage；基幹病院から見た地域連携）（2024年9月発行）。 ＜紹介後の診療の実際＞ 患者の現病歴、既往歴、理学的所見、患者立脚型評価や日常生活動作評価表（Health assessment questionnaire）,血液検査（関節リウマチに特有の自己抗体検査であるリウマトイド因子、抗環状シトルリン化ペプチド抗体、抗核抗体、血清マトリックスメタロプロテイナーゼ-3含む炎症項目を網羅）、関節超音波検査、単純エックス線検査、必要時は関節MRI検査やCT検査を駆使して、新潟大学医歯学総合病院の日本リウマチ学会認定のリウマチ専門医が診療にあたり、診断を確定する。その後日本リウマチ学会診療ガイドラインに照らし合わせてPhase1から3までの流れで治療を行い、3－6か月ごとに病勢を評価し制御していく。紹介元の医師には、初回受診報告書、中間報告書（紹介後6か月で発行）、そして最終報告書（紹介後1年で発行）を逐次返送し、紹介された症例のfeedbackを漏れなく行っている。 ＜今後の課題＞

	研究計画に掲げた市民公開講座を開催できなかったため、今後は確実に行う。その際に参加者にアンケートを行い、市民公開講座に関する感想を聞くとともに、市民公開講座によって診断未確定リウマチ性疾患について認知や理解がどの程度深まったか、を記載してもらう。アンケートは集計し、評価する。 （市民公開講座は2025年9月28日に開催予定である）。 上記の結果は、定期的に通院している患者100症例の結果であるため、正確な診断未確定リウマチ性疾患を対象とすることには至っていない。今後当該施設の新患での患者に対してこの関節炎チェックリストを積極的に採取し、正確な評価をおこなう方針である。